平成30年度第2回恵庭市社会福祉審議会・障害者福祉専門部会議事録

1. 開催日時 平成31年2月15日（金） 10:00～11:00

2. 開催場所 恵庭市民会館 第2会議室

3. 出席者

【出席委員】 鏡部会長、泉副部会長、下原委員、菅原委員、高橋光彦委員、高橋敏明委員、武田委員、高橋友春委員、橋本委員、岡田委員
10名

【欠席委員】 熊谷委員 1名

【傍聴者】 なし

【事務局】 保健福祉部長、保健福祉部次長、保健センター長、子ども未来部長、子ども未来部次長、子ども発達支援センター長、子ども家庭課主幹、障がい福祉課長、保健課長、子ども家庭課相談・支援担当主査、保健課介護予防・精神保健担当主査、障がい福祉課主査、同スタッフ

4. 内 容

(1) 開会

(2) 部会長挨拶

(3) 議事

- ①手話言語条例の制定に向けた提言書について
- ②農福連携の取組み状況について
- ③恵庭市総合相談支援センターの運営報告について
- ④その他

議事内容

①手話言語条例の制定に向けた提言書について事務局より説明を行う。

以下、質疑応答

【委員】 ろうの方は何名くらいいるか。

【事務局】 ろうの方は10名程だが、聴覚障がいの方はもっといる。

平成28度の資料だが、身体障害者手帳で音声言語障がいの方は28名となっている。

②農福連携の取組み状況について事務局より説明を行う。

以下、質疑応答

【委員】非常に良い取組みだと思うが、農福連携の失敗事例はないのか。

【事務局】あった。具体的には、農家と就労支援事業所が実際作業に取り組んだ時に、障がい者の方には色々な特性があるため、なかなか作業に定着しにくいという状況もあり、そうなった時に農家も農作業をストップすることができないという事情がでてくる。そのような状況になった時は、ご縁がなかったということで継続していくことが難しかったというケースは存在している。

【委員】そのような事例は、あえて事例集には入れないのか。

【事務局】今回は成功事例をご紹介して農福連携の取組みに一つポジティブな情報を流して、参入していきけるような意識を持っていただきたいという思いで作らせていただいたので、今回は成功事例ということで作成させていただいている。

【委員】全国展開しているのか。

【事務局】農福連携自体は平成 25 年頃から話題になり全国的にこういう動きはあるが、まだまだ全国的にはそこまで浸透していない状況。

【委員】今の失敗事例の線引きだが、私の子も軽度知的障がいので就労支援事業所でお世話になっている。それまでに受けた検査結果では A 型採用は無理じゃないかという判定だったが、実際に作業を行うと A 型に行けるのではないかということもある。ですから先程言われたように色々な特性があるが、失敗例とたまたま障がいの色んな特性を持っていたことで向いてなかったというのとはちょっと違うような、一つの乗り越える過程の問題と今言われたような失敗とはちょっと違うと思う。

ですから、その辺の線引きを進める中できちんと見極めるというのは、これから一つのの大事な考え方ではないかと思う。

【事務局】今お話しいただいていることについては、就労支援事業所でピーマンの収穫というのを当初考えたようだ。その時に収穫というのは職人的な技と言うか感覚で収穫するというようなことがあって、少し難しいだろうというようなお話があった。その中でもどうにかして収穫できないだろうかということで話が上がっているのが、先程ご説明させていただいた調査研究項目というのがある。この過程を通してもしこれができるようになれば、成功の途中というか、失敗事例で終わらない取組み。

【委員】流れの中で失敗するというのと乗り越えなければいけないとい

うのは少し違うように思えた。

【事務局】 そうだと考えられる。ありがとうございました。

③ 恵庭市総合相談支援センターの運営報告について説明を行う。

質疑なし

④ その他

保健福祉部長挨拶

(4) 閉会